

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：14602

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24656349

研究課題名(和文) 歴史的風致における地域活動の景観意匠化に関する研究

研究課題名(英文) Study on determination of urban designs influenced by local activities in historical environment

研究代表者

増井 正哉 (MASUI, Masaya)

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：40190350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成20年度に施行の「歴史まちづくり法」は、歴史的「風致」と地域の「活動」を関連づけた点に特徴がある。本研究は、伝統的地域活動が当該地区の景観形成に深く関連してきた地区を対象に、活動(とくに祭礼等)が、地域の景観形成にどのように関わってきたかを検討し、景観の構成要素である住宅、都市施設等の意匠との関連を明確化し、景観構成要素と伝統的活動の関連性をふまえて、将来的な住宅・都市施設の保存・改修・修景にあたっての留意事項を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The Rekishi-machidukuri act became effective in 2008. Its remarkable characteristic is that development of historical scenic beauty is correlated with traditional local activities. Through the specific filed surveys, this study aims to discuss how the traditional activities influence the development of urban landscape, to clarify the relationship between the activities and the designs of urban facilities, and to point out the essential considerations for landscaping and facade enhancement.

研究分野：建築学

キーワード：歴史的風致 歴史的町並み

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年度に施行された「歴史まちづくり法」(以下、「歴まち法」)は、独自の定義による歴史的「風致」と地域の「活動」を関連づけた点に特徴がある。歴まち法では、「歴史的風致」を「地域における固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義しており、その維持向上がこの法律のねらいである。建物と活動を一体的に評価し整備しようとする点が注目される点であり、その運用による歴史的環境整備の効果が期待されている。実際、風致維持向上計画がすでに多くの自治体で認定され、具体的な事業が進んでいる。

ただ、法にいう「活動」と景観を形成する建造物、あるいは建造物や環境物件が構成する都市空間との関連性が明確にされておらず、また、具体的な景観整備や個別更新のルールは、当然、その関連性を重視して行われているべきであるが、実際のところは、各自自治体の景観ガイドラインにまかされているのが現状である。

研究代表者は伝統的建造物群保存地区決定のための対策調査・見直し調査・保存計画に長く携わってきた(奈良県宇陀松山地区・今井地区、徳島県落合地区等)。一方で、伝統的都市祭礼における町家・町並みの空間の利用と演出に関する研究も並行して行ってきた(『まち祇園祭すまい』『祭りのしつらい - 町家と町並み』ともに思文閣出版等)。そして、具体的な風致維持向上計画の策定(徳島県三好市)に参加するなかで、この法律の可能性に期待するとともに、町並み景観の保存整備にあたって、祭礼などの活動と景観意匠の関係性を地区ごとに明確にしておくことが必要であり、地区の地域性・歴史性を維持向上させていくことにより効果があると考えた。

従来の景観研究においても地域の活動と景観の関連の重要性はよく認識され、生活景や重層性の視点から議論されてきた。ただ、生活と具体的な地区の景観形成とその整備と関連づけてとらえる研究は少なかった。また、祭礼などの非日常的な活動と景観整備の関係性は、その重要性が指摘されつつも、具体的な整備の対象としては、イベントの利用に特化した施設やシンボルの整備で終わってしまい、市街地全体の景観整備につながることはまれであった。

2. 研究の目的

本研究は、伝統的地域「活動」が当該地区の景観形成に深く関連してきたと考えられる地区を対象に、伝統的地域活動と景観意匠の関係性について、地区に特徴的な伝統産業や農林漁業などに比べて、あまり注目されてこなかった非日常的活動、とくに祭礼等の行事に注目し、非日常的活動と景観の構成要素

である民家の意匠との関連を明確化する。さらには、景観構成要素と伝統的活動の関連性をふまえて、将来的な民家・都市施設の保存・改修・修景にあたっての留意事項をまとめていくことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究対象地区

以下の4地区を対象とする。それぞれ、祭礼等の伝統的地域活動と建造物の意匠・町並み景観との関連が強いと考えられる地区である。

滋賀県大津市：大津町家の2階窓、2階座敷の形成と伝統的都市祭礼大津祭と関連性が深い。近年市街地の更新が進むが、祭礼時の演出の数は増えている。

滋賀県日野町：伝統的民家の板塀に伝統的祭礼日野祭における利用に特化した棧敷窓がある。新築の住宅に棧敷窓を設ける例が増えている。

奈良県大和郡山市番条地区：環濠集落の特色である環濠や民家が顕著にみられる地区で、村内八十八か所巡礼が近世から現在まで継続して行われ、人々の生活に深く関わっている。

長野県塩尻市奈良井地区：伝統的建造物群保存地区における伝統的建造物(保存物件)の内部空間が夏祭のしつらいと密接な関連性がある。

以上の4地区を主たる調査対象地区として、(2)の内容の調査を実施した。とくに研究期間3カ年度にわたって、継続的に調査を実施した。この他、祭礼と景観意匠との関連が深い地区として、以下の2地区を参考地区として、観察調査を行った。

富山県富山市八尾地区：町通りと曳山祭・風の盆との関係が特徴的で、新しい行事用の施設が整備されつつある。また、行事に配慮した住宅のガイドラインを作っている。

富山県城端町：曳山祭の当屋のしつらいを可能にするための独特の住宅構法が見られるが、道路拡幅によって大きく市街地が変容している。

(2) 調査の方法

上記～地区において、資料調査、祭礼時における空間利用と演出の調査、住民に対するインタビュー調査を行った。

資料調査では、当該地区における地区形成の歴史、個別の建造物等の調査などの既存研究の文献調査、地区に残る史料の調査収集を行った。

祭礼時における空間利用と演出の調査では、対象地区の空間を都市スケール/町内スケール/住宅スケールにわけ、それぞれに空間がどのように利用演出されているかを、略実測図の作成(広場と施設等)とプロット(宗教的シンボル、提灯、幔幕等)実測図面作成(住宅レベル)で記録した。

インタビュー調査では、祭礼時に何らかの利用演出が行われた住宅の住民を対象に、利

用演出に当たっての慣習／留意事項、とくに建物の更新にあたっての祭礼時の利用・演出等のインタビューを行った。

さらに、上記～の地区については、祭礼時のしつらいについて、分布図の作成と写真撮影を行った。

4. 研究成果

(1)各地区での調査結果概要

大津市

・概要

近世大津は、大津百町と称される規模を誇り、東海道では江戸、京都に次ぐ賑わいを見せたといわれる。大津祭は、大津町の旧四宮町、現在の京町3丁目に鎮座する天孫神社の秋祭で、現在は毎年体育の日の前日に本祭が行われる。本祭の当日は天孫神社氏子のうち14カ町から13基の曳山が出され、終日町中を巡行する。巡行経路では、通りや町家に曳山を迎えるためのしつらいが行われる。

曳山を出す13カ町一体の建物を全棟調査したところ、そのうち木造のものが6割を越え、4割以上が表構え・内部ともに伝統的町家の形式を維持していた。調査地区全体としては歴史的居住地の雰囲気がよく維持されていることが分かる。大津の町家は切妻造平入、棧瓦葺で、現在は本2階建の建物が多い。明治中期までに建てられた町家はツシ2階建の町家がほとんどであった。表構え変化には、昭和初年の道路拡幅の際の軒切りが大きく影響しており、通りに面した部分が切り取られ軒高が高くなって本2階建風の外観になったものも多い。2階には通りからみて奥側に座敷をもつものが多いが、通りに面した室(2階オモテノマ)に略式ながら床をかまえるものもあるのが大津の町家の特徴である。

・祭礼時の演出

大津祭では宵宮と本宮では、しつらいが異なるが、ここでは本宮の演出について報告する。何らかのしつらいが行われていた室は1階あるいは2階の座敷のほか、2階オモテノマが用いられることが圧倒的に多かった。このなかには、ビルの2階部分やアーケードに覆われた通りに面した2階オモテノマを活用したしつらいも含まれる。2階オモテノマのしつらいは、大津祭における町家の空間利用の最大の特徴といえる。これは2階オモテノマが、曳山巡行の際に所望される曳山上のからくりが、もっともよく見える場所であることに起因すると考えられる。ここでは曳山の巡行を迎えるため、通りに面した開口部の建具がはずされ、敷居や手摺に毛氈がたられる。部屋の奥には屏風や衝立などが立てられ、家人はその前に座って曳山の巡行を見物する。さきに述べたように2階オモテノマには、釣り床など略式の床を設けているものもあり、季節にあわせた軸物でいるどる場合もある。2階から曳山を見物する習慣は古くからあったらしいが、2階に大きな開口をもつ

居室が増えるのは昭和になってからのことであり、建具をはずして毛氈をたらすといった演出は比較的最近になって現れたものであると考えられる。

・空間演出と町家の形態

大津の町家の形態および空間構成には、祭りのさいの利用を考慮した点が少なからず認められる。とくに2階オモテノマは祭礼時の利用を意識したさまざまな工夫が行われている。まず、釣り床など略式ながらも床の間などを備えたものが多数みられる。さらに意識的に通りに面した開口を広く開ける町家が多く、なかには2間を方立てなしで開放する例や、また方立てを取り外すことができる町家もあった。ヒアリングでは、祭りのさいの利用を考えて、開口部をできるだけ広く採るように大工に頼むこともあったという。

2階の天井が低い町家では、2階の床面を下げて天井高を確保しているものもみられた。また、改修や建替えに際して祭礼時の利用を考慮した事例としては、ビルの2階に座敷を設けたもの、2階部分は伝統的な形態のまま残し1階のみを看板建築にしたものなどがあげられる。

このように大津祭における空間利用・空間演出の最大の特徴は、2階の通り側の室にしつらえられた席にあり、祭礼時のしつらいが町家の形態と深く関わっていることが明らかになった。町家の形態の変化が祭礼時の空間利用を変化させ、また逆に、祭礼時の空間利用が町家の形態を決定するという相関関係が両者の間に成り立っていることが指摘できた。

・近年の変化

通りに対するしつらいは、幔幕、毛氈、提灯3つの要素すべてで増加傾向にあるが、個々の建物レベルでのしつらいは減少傾向にある。このことと今回調査の知見から、建物更新でしつらいのための空間がなくなり屏風飾りができなくなったとしても、幔幕や提灯を吊るなど比較的手軽にできるしつらいに変更するようになったと考えられる。また、建物の更新をする際に直接的な要因とはならないが、大津祭の際の空間利用や演出が建物外観と内部の間取り、造作に影響を与えている例があることが分かった。現代的な外観の建物に建て替えをしても、演出要素は少ないながらしつらいを継続して行っていること、そして、建て替え後に当家を務めるなどして大津祭に関わっている事例があることから、建物更新は祭礼時の空間利用・演出に悪影響を与えているわけではないといえる。しかし、祭礼のための空間として大きな開口部やベランダ・バルコニーを設ける傾向はあっても、町並みに配慮したデザインにはなっていないのが現状である。中心市街地としての大津の社会的環境が厳しく、祭礼に特化した洗練されたデザインのものを持ち込むのは困難であることも、この背景となっている。

日野 ・概要

滋賀県蒲生郡日野町は蒲生氏の中世城下町を起源とし、近世初頭の蒲生氏転封以後は在郷町として発展し、全国各地に日野商人を送り出した。旧在郷町には、いまでも伝統的な民家と町並みが残されている。なかでも本町通では、板塀に設けられた棧敷窓とよばれる開口部が町なみを特徴あるものになっている。この通りは一見すると、板塀と土塀が連続する落ち着いた雰囲気のある町並みである。ところが、日野祭が行われる5月3日には、主屋前の前栽に棧敷が設けられ、棧敷窓が開け放たれ緋色の毛氈がかざられて、通りが華やかな景観に一変する。

もっとも重要な景観の構成要素は、塀、フェンスなどの境界要素である。伝統的な民家のうち、直接建物が通りに面してたつもの（町家的な外観をもつ）は少なくその他は、通りとの間に前栽や空地をもうけて主屋をたてる。そのため、民家の表構えよりも塀・フェンスなどの境界要素が、前栽の緑や主屋の屋根を背景にして、重要な景観の構成要素となる。境界要素のうち、板塀は全体の半数をしめ、土塀は9事例と少ないが大規模な日野商人本宅などでみられる。こうした板塀、土塀に、棧敷窓とよばれる開口部を設けるのが、日野独特の意匠である。棧敷窓にはいくつかの種類があるが、窓を2連に並べるものが多いが、ひとつのもの、4連のものもある。近年、棧敷窓が地域を特徴づけるものとして見直され、民家の新築にあたって棧敷窓をもうける例が増えてきている。

民家の屋敷地は間口に対して奥行が長い矩形が一般的で、宅地割が城下町に由来することを示している。主屋はほぼ屋敷地の間口いっぱいの規模で、通りから少し後退してたつのが一般的である。通りに面しては板塀を設け、主屋と板塀との間に幅2～4mの前栽がある。

・しつらいと祭礼空間

祭礼時に御輿と曳山の巡行経路となる本町通沿いの民家では、主屋の通りに面した居室であるデノマやオクノマに屏風や衝立が飾られ、前栽に設けられた棧敷、開放された棧敷窓と一体となった祭礼空間が形づくられる。この祭礼空間は、本町通の空間構成と民家の構造に深く関わっている。

本町通の民家では、境界要素や棧敷窓の有無に関係なく、通り側の2室がしつらえられるが、オクノマを最も格式の高い接客空間として、またデノマをオクノマの次の間として使用される例が多い。開かれた棧敷窓には御簾が垂らされ、鮮やかな緋毛氈がかけられる。御簾は神輿渡御や曳山巡行のさいに巻き上げられ、オクノマでそれを待っていた客や家人も棧敷に移動して、棧敷窓越しに見物するのである。

日野祭における祭礼空間の特徴は、棧敷窓を介して家と通りが一時的に結びつけられ

ることにある。日野祭では、板塀など境界要素や前栽を通して、通り（公的空間）からオクノマ（私的空間）まで、段階的な空間構成となる。日常は閉鎖的な構えの民家も、半公的・半私的空間を介して、通りと一体となった祭礼空間となるのである。棧敷窓は、こうした独特の祭礼空間を現出するもっとも重要な装置であるといえる。

・近年の傾向

近年には棧敷窓を開放する、棧敷を組み立てる、屏風をたてるといった祭礼時のしつらいを行わない、しつらいを行っても、棧敷を出さない、棧敷の屋根を架けないなど、簡略化する民家が増加している。その一方で、新築家屋でも通り側にザンキを設けたり、新規に棧敷窓をつくるなど、祭礼時の伝統的な空間演出を意識した形態を踏襲したものもみられた。ここ20年間の建物更新を調査したところ、セットバックして建築することや塀のない現代的なデザインの建物が増えたことで、日野独特の塀、棧敷窓のある町並みは変化しつつある。セットバックして建物を建てることでそれを加速させている。しかし、面路性や町並みの連続性が薄れる一方で、棧敷窓を設ける事例は増加している。近年は、板塀でなくモルタル・コンクリート塀に、これまで見られなかったようなデザインの棧敷窓を設けたり、棧敷窓を設けた塀自体のデザインに趣向をこらす傾向もみられる。今回の調査では、板塀に縦板打ちと大和打ち両方を取り入れ、棧敷窓を設けた事例を確認することができた。小屋根を設けた板塀に関しては、小屋根と板塀の間に独自のデザインを取り入れる傾向にある。アリング調査では、平常時から見られる意識をもっていると回答した住民もあり、今後ますます塀や棧敷窓のデザイン性は高まると思われる。

番条地区

番条は大和盆地の典型的な環濠集落であり、伝統的な形態の環濠のなかに、大和棟の主屋を土塀が取り囲む、いわゆる「囲造り」の屋敷構えをもつ民家が多数残っている。昭和末年の調査では総民家数90のうち75が囲造りであり、多くに長屋門等の門が設けられていた。

「村内八十八カ所巡礼」は、毎年、弘法大師の命日である4月21日に、四国の八十八カ所巡りにちなんで、番条内の各戸で「お大師さん」と呼ばれる弘法大師の坐像（以下、「お大師さん」とする）を出入り口付近に飾り付けお供えし、参拝者がそれを巡り歩くといったものである。調査では行事の際の集落全体や各戸の空間の使い方を明らかにするため、お大師さんの分布状況と設置の場所・位置・方法について、写真撮影や図面作成、ヒアリング調査などを行った。

建築・町並みに関する調査の結果、囲造り、大和棟、門構え、環濠、環濠に接する建物等の歴史的環境がよく残されてること、とくに、囲造りと門構えは、通りの景観を特徴付ける

要素であることが明らかになった。

さらに、年に一度行われる村内八十八カ所巡礼の調査では、

・お大師さんの設置場所、設置方法。そのなかで、

・その重要性が明らかになった長屋門を活かした方法が多く採用されること、

・巡礼時に長屋門の戸外または戸内など、お大師さんを設置する場所によって、住民の敷地を認識する範囲に変化が見られたこと、

・長屋門の近年の変化とその傾向

を明らかにし、お大師さんのしつらいと歴史的環境との関係を検討した。

奈良井地区

・概要

奈良井は中山道木曾 11 宿のひとつで、鳥居峠の難所を控えた宿場町である。宿場町全体が昭和 53 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて、歴史的町並みが保存されており、妻籠、馬籠とならんで、木曾路における観光スポットでもある。宿場町は中山道にそって南北約 800m におよび、南端に鎮神社、北端に八幡神社がある。街道に面して立つ建物の約 90% が伝統的町家である。すべて切妻造、平入りの町家で、表二階部分が出梁によって前方にせり出していることや、猿頭という意匠で装飾された幕板と鈎金具でささえらえた軒庇、一階開口部の大戸口や蓐が、奈良井の町家の表構えの特徴である。

奈良井における伝統的な祭り鎮神社の例祭で、毎年 8 月 12 日に行われる。宿場町を構成する 3 町から、それぞれ若衆がくりだし、八幡神社に宮入した神輿と獅子屋台が、街道を巡行する。

・町家のしつらい

通りに面した町家では、ミセノマ前面の建具をすべて取りはずし、軒先に吊提灯とすだれをかける。神輿が近づくとあたりの家々では、いっせいにすだれを上げて、神輿を迎える。注目されるその連続性で、宿場の南端から北端まで 219 戸の町家がなるが、そのうち 195 戸にこうしたしつらいが見られた。

・町並み保存と祭りのしつらい

檜川村教育委員会によると、伝統的建造物群保存地区における修理・修景事業が夏祭りによって影響されているという。住民は、祭りに差し障りがないように、祭りの前に工事を完了させるか、あるいは祭りのあとに着工するかどちらかを選択する。今回の調査では町家を改築・新築するにあたって、祭りのしつらいを考慮した家が多いことが分かった。つまり、通りに面した建具がすべて取り払えること。しかも、腰壁をつくらずに掃きだしとして、前面を開放することなどが、考慮されていた。伝統的建造物群保存地区では、伝統的な民家を修理する際、どのように現代的な生活と整合性をとるのが問題となるが、技術的には簡単なことではない。新しい建物を伝統的景観に調和させるために修景する場合、どのような表構えにするべきかが大き

な問題となる。ところが、奈良井では、そうした問題は少なく、住民から持ち込まれる修理案・修景案がそのまま採られることが多いという。奈良井の場合は、祭りのしつらいという分かりやすい意識が、「奈良井の町家こうあるべき」という共通認識を下支えしているとみることができる。

(2)まとめと課題

以上の調査から、現時点で以下の知見をえている。

祭礼等の活動と地域に特徴的な建築意匠が深い関係を持つこと、

祭礼時の演出が地域の建造物・都市および集落空間の特徴を活かしていること、

逆に祭礼時の演出が、地域に特徴的な建築意匠をつくり出していること(日野における棧敷窓など)

祭礼時の伝統的演出が民家の形態に影響するだけではなく、地域の建築更新システムとも関係している地区があること(奈良井や今回の報告では触れなかったが富山県城端の例)

建物更新に関するルールの運用と、こうした祭礼時の空間利用を関係させる可能性があること(奈良井の例)

近年の建築更新においても、祭礼時の演出に配慮したものが多く見られること、を明らかにすることができた。

について考察を加えると、日野では、伝統的意匠によらない建築更新(いわゆるハウスメーカー製のもの)でも、板塀と棧敷窓を設けるものが少なくない。一方、大津では、実際の祭礼演出を住宅スケールでみると、多くの民家で伝統的なしつらいを行っていて、その数は増加傾向にあるが、実際の建物は非伝統的であり伝統的町並み景観に調和したものとは言いがたい。つまり、伝統的地域活動(祭礼)が景観意匠化となっていないのが実情である。中心市街地という特性もあるが、日野における棧敷窓のような、具体的な景観意匠のイメージを共有化できないことも大きな要因と考えられる。それに対して、地元の地域団体が中心となって、「まつりちょうちんが似合う町並み」を目標に、大津祭の祭礼演出に配慮した町づくりを進めようとしていて、大津市もそれに対する補助事業を始めている。こうした動きがどのような効果をもたらすか、引き続き、調査をつづけていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

清水麻由、山本梨花、増井正哉、歴史的集落の伝統行事における空間利用に関する研究：大和郡山市番条町における村内八十八カ所巡礼を通して、家政学研究、査読有、59 巻 2 号、2013、29-36、2013-03

〔学会発表〕(計3件)

松崎良子、神谷友代、山本梨花、増井正哉、
都市祭礼に対する住民意識と建物更新の関
わりに関する研究 - 滋賀県日野町を事例と
して その1、2013年度日本建築学会大会、
2013年8月31日、札幌

神谷友代、山本梨花、松崎良子、増井正哉、
都市祭礼に対する住民意識と建物更新の関
わりに関する研究 - 滋賀県日野町を事例と
して その2、2013年度日本建築学会大会、
2013年8月31日、札幌

山本梨花、神谷友代、松崎良子、増井正哉、
都市祭礼に対する住民意識と建物更新の関
わりに関する研究 - 滋賀県日野町を事例と
して その3、2013年度日本建築学会大会、
2013年8月31日、札幌

6. 研究組織

(1) 研究代表者

増井 正哉 (MASUI, Masaya)

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：40190350